

真崎地区 村政懇談会

日 時：平成 26 年 6 月 25 日（水） 午後 7 時から 9 時まで

場 所：真崎コミュニティセンター会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長） 計 8 名

事務局（課長，副参事，課長補佐，自治推進課職員 3 名） 計 6 名

自治会長（真崎区，舟石川三区，原子力機構荒谷台区，） 計 3 名

自治会連合会（会長，事務局長，事務局職員 2 名） 計 4 名

参加者：真崎区 38 名，舟石川三区 11 名，原子力機構荒谷台区 1 名，その他 30 名 計 80 名

司会進行：真崎地区自治会企画総務部会長 総計 101 名

《次第》

開会の言葉

1. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
2. 地区自治会長あいさつ
3. 村長あいさつ並びに村政に関する説明
4. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
5. 自由質問

《記録》

【3.村長あいさつ並びに村政に関する説明後の質疑】

舟石川三区住民：「持続可能なまちづくり」は結構なことだが，村長は自治会加入率の促進については，どのように考えているのかお聞きしたい。また，情報ソーシャルネットワークサービスがさらに便利になるとのことだが，活動を維持するためには自治会に加入してもらわないとならないと思うが，その辺りをどのように考えているのかお聞きしたい。

村長：協働のまちづくりを推進するには地域の担い手を育てなければいけないと思う。地域にはいろいろな団体もあるが基本的には自治会が中心的役割を担うと思う。自治会加入については，戸建はそこそこ入っていると思うが，一方で脱会してしまう人もいます。自治会に加入しなくても広報誌の全戸配布はあるので，加入しなくても生活ができるが，加入したほうが「メリットがある」ということを全面に出していきたい。自治会任せだけでは難しいのはわかっているので，行政でも支援する仕組みを作らないといけない。声掛けだけでは難しいのも理解しているので，もう少し時間を頂きたい。

舟石川三区住民：自主防災の話もあるので，是非具体化してほしい。

真崎地区 村政懇談会

真崎区住民：常陸那珂火力発電所の稼働に伴う固定資産税により歳入が増えるのはいいが、CO₂が多く出る。液化天然ガス（LNG）のほうがCO₂の発生量が少ないのでいいのではないか。「固定資産税を返すから、CO₂を減らせ」と言ったほうがいいと思う。CO₂を減らせということを何らかの形で東京電力に示して頂けると嬉しい。

村長：正直もらえるものはもらっている感はある。現在は火力発電が頼み。木質バイオマス燃料を入れてCO₂削減に配慮しているが、東京電力が会社の方針としてCO₂削減を今すぐ大幅に実施するのは難しいと思う。村は現在、太陽光発電事業を進めていて、村有施設の屋根貸しも行っている。今後は、ほしいものの残渣を利用した開発を行って行けたらと思っている。

【4.地区自治会からの事前質問・要望に関する回答後の質疑】

教育長：中央地区区画整理事業地内の学区については、村松小学区になると思う。まず第1に子どもたちの通学での安全面を考えなくてはいけない。2つ目は子ども会など生活環境のこと。3つ目は適正規模。村松小の生徒は現在290名。県での適正規模は2クラスとのこと。人間関係作りや教育の質を考えると2クラスが適正かと思う。村松小は360名くらいが適正かと思うので、村松小学区がよいのではと思う。中央地区区画整理の工事に入る前に学区の整理を行わなければならないので、早急に教育委員会で考えていきたい。

舟石川三区住民：介護保険の事業計画について、理解はできるが、「介護老人福祉施設への入所は空き次第となりますので、期間としては申し上げられない」との回答だが、どの位待てばよいのか、その回答がほしい。

福祉部長：入所されている方が退所しなければ空はできない。平成27年度には40床ほど増床する計画があるが、どのくらいの期間を待てばよいのかとのことだが、その回答は難しい。

舟石川三区住民：今までの実態として把握していないのか。入所までの期間が3年か4年か、それ以上になるのか答えて頂きたい。今回答できないなら、あとで地区自治会に回答して頂きたい。

【5.自由質問】

真崎区住民：阿漕ヶ浦の遊歩道の件、阿漕クラブの前の道が通行できない。8月に花火大会があるが、それまでに整備は間に合うのか。できれば花火大会までに通れるようにしてほしい。また、以前はきれいな阿漕ヶ浦だったのに、今は全然違うものになっている。以前のようなきれいな阿漕ヶ浦に戻すことはできないのか。

建設農政部長：昨年も遊歩道についての質問があったが、通行止になっている道路については、日本原子力研究開発機構（JAEA）のテニスコート付近で、水道等は復旧している。今後この道路をどうするかをJAEAと協議中。245号線の拡幅工事が

真崎地区 村政懇談会

あるので、早めに対応したいと考えている。花火大会までには通れるようにして欲しいとのことなので、みちづくり課と協議検討したい。阿漕ヶ浦の水質が汚れていることについては、水質は確認していないが、水量は落ち着いている。今までは循環していたので水質がきれいになっていたが、今は循環していない状態。所有者は個人なので早急に結論は出ない。内部で検討させて頂きたい。

舟石川三区住民：災害時のコミセンの基幹避難所の収容人数についての意見と要望。真崎コミセンの収容人数は、対象人数に対して1割だと思っている。消防法の関係で、避難者1人に対して2m²が必要とのこと。3・11の時にコミセンに入りきれなかった人が駐車場に避難していた。あふれた人の対応を考えておいて欲しい。小中学校や各集会所も、あふれた人が避難できるように計画を立てておいて欲しい。また、支援体制についても考えて欲しい。3・11を超える災害が発生した場合、コミセンだけでは避難者の受入はできないと思う。

村民生活部長：基幹避難所である真崎コミセンに入りきれないときはどうするのか。とのことだが、3・11をふまえて、6コミセンを含め20ヶ所を避難所として計画している。御指摘のように体制をどうするのか。役場職員だけでは手が回らないと思うので、地域の方の協力を得て避難所の運営を行っていくことになると思うが、更に避難所が増えた時のことも考えていかなければならないと思っている。

真崎区住民：阿漕ヶ浦だが「魚を釣ると警察に通報する」との看板がある。所有者が個人とのことだが、村で管理をするようにしてはどうか。

建設農政部長：所有者が看板を立てていると思う。個人の所有なので難しいが、何かの機会に所有者に話せればと思う。

真崎区住民：議会において、「ボランティアにポイント制を」との話があった。私たちは環境を考えて、不要になった傘布でエコバッグを、牛乳パックでいす作りを行っている。これまでは真崎コミセンを中心に活動していたが、コミセンの減免が見直しになったので、ボランティア活動をしていてくれる方に何かお返しができたらと思うので、一緒に考えて頂ければと思う。総合福祉センター「絆」やボランティア市民活動センター「えがお」など無償のところを使用したけど、コミセンのほうが利用しやすい。

村民生活部長：ボランティア活動をしている方にポイント制をとることだが、自治会加入にからめて何かできないかと考えている。個人的な意見になるが、ボランティアにポイントをつけ、コミセンの使用料金に使用できるようにするとか、住民税や固定資産税の支払に使用できるようにするとか、何か村のサービスに使用できるようにすることなどを考えていきたい。自治会加入者はポイントを2倍にするなど。問題はポイントのカウントの仕方で、課題も多いのもう少し待つて欲しい。

村長：私も村民生活部長のポイント制の考え方は、あり得るものとする。つくば市では、環境サポーターにポイントを付与していて、Suica等に加算できる。本来

真崎地区 村政懇談会

ボランティアは無償だと思うが、理想ばかり言うてはいられないので、ある程度のインセンティブがないとできないと思う。イオンでレシートを好きな団体に還元するというのをやっていて、素晴らしいと思う。民間ができるのだから行政もできるはず。民間の手法を是非取り入れて、なんとかやっていきたいと思う。

真崎区住民：3年前の震災で放射能が飛散して、村でもスポット的に数値の高いところがある。真崎古墳群も数値が高かったようで、立入禁止の表示があったが、最近いつの間にか表示がなくなっていた。放射能の濃度が低くなったと思うが、今の状態はどのようになっているのか。また、広報誌等にそのような記事は出ているのか。

村民生活部長：真崎古墳群については、当初濃度の高いところがあり、表土を削った。削ったものが古墳の奥においてあるので立ち入れないようにフェンスをしているが、この行先が決まっていない。環境省で燃えるものについては、燃やしていいとのことだが、土については処分先が決まっていない。しばらくは現在の場所に保管することになる。この対応については真崎古墳群だけではなく、村内で削ったものは全てその場所に保管されている。なお、大きな公園以外のホットスポットは除染を行い、今年度中に完了予定。真崎古墳群は、除染前0.3マイクロシーベルト 除染後0.2マイクロシーベルトとなった。

白方区住民：日本原子力発電所の安全対策説明会について。白方区には案内があったし新聞にも取り上げられていたが、順次各区に説明会の案内が届くと思う。各区30人で2回、30地区で行うと聞いている。1,800人で60日かかると思うが、この情報は正確なものなのかお伺いしたい。また、なぜテラパークでやるのか、1時間でどこまでの質疑ができるのか疑問が残るし、他の区の説明会の様子を知ることができない。要望として村主催でオープンな説明会を計画して欲しい。1企業が村民をふりまわしすぎだと思う。2つ目の要望として事故が起こった場合、原電から村に連絡が来て、その後住民に知られると思うが、どのくらいの速さでどの程度正確に連絡がくるのかということに非常に不安を感じているので、村独自で原電の中の情報をストレートに知ることができるシステムを作って頂きたい。

村民生活部長：説明会は白方区が皮切りとなる。30人が2回で60人。30区全部で説明会を実施する予定。希望者が多い場合には「別の日を設定して対応するように」と原電に伝えてある。テラパークで実施するのは、安全対策の工事現場を見て欲しいからとのこと。また、全区で説明会を行うので聞けないわけではない。村外の人に対しても原電は説明会を実施するとのこと。また、原電がしっかりと説明をするものと思われるので、村主催の説明会は考えていない。情報をいち早く把握するシステムについては、事故やトラブルがあった場合には速やかに連絡がくる体制になっているので、今後も徹底していきたい。

白方区住民：他の区で出た意見や内容について知ることができないので、オープンな説明会を要望している。オープンな説明会でないと、「概ね了解を頂けた」となりかね

真崎地区 村政懇談会

ない。情報をいち早く把握するシステムについては、村は原電に全幅の信頼をおいているのかもしれないが、住民としては不安。人をこけにしている企業を信頼できないと思うので、その辺のところをお考え頂きたい。

村民生活部長：説明会には村の職員も出席するので、議事録で情報を提供することができる。原電ばかりでなく原子力関係の会社は他にもあるが、いち早く通報してもらうのは、信頼関係であり、これまでの歴史をふまえると通報してもらえるものと考えている。

白方区住民：村の考え方はわかったが納得できない。

真崎区住民：遺伝子組み換えの食品、特に小麦を食べて調子が悪くなったという内容の本を読んだ。TPPに賛成の人もいれば反対の人もいるが、この件に関して危惧を抱いている。日本ではそのような作物は作ってはいないようだが、小麦に関しては外国や大規模な農業ではそのようになっているようだ。村民の空気と水と食べ物は大事だと思うので、「国がやるからいい」ではなく村でも目を向けてほしいと思う。また、県や村で遺伝子組み換えの食品に対しての検討会や協議会はあるのか。

村民生活部長：小麦や大豆が遺伝子組み換え食品になっている。実際には遺伝子を組み換えているのではなく、遺伝子をぶつけて、その中から使えるものを集めて使っていると聞いている。遺伝子組み換えについては、JAが中心となって村内でも説明会を開いている。今後村でも講演会を行ってもいいと思うので、検討していく。

村長：食の流通の問題なので市町村レベルでは難しいが、県レベルでは対応していると思う。できるだけ地産地消を進めていくのが望ましいと思っている。

真崎区住民：「大人の人づくり」についてお伺いしたい。村長は教育に対しての権限が強くなると考えているようだが、今後少子化に向かっていくが生産性についてどのように考えているのか。またどのような人間を育てていこうと考えているのか。理念をお伺いしたい。

村長：子どもたちには「必要以上に期待してはいけない」と思っている。大人が子どもたちに示せるもの、守り続けるものを子どもたちが感じ取っていけるように育ててほしい。理想かもしれないが、自然や生活環境も含めて、雇用の場も含めて子どもたちが自然にこの村に残って、更に支えてくれるようになればよいと思っている。学校教育の場でどこまでできるのかは教育長の手腕だが、高校、大学に進学する年代のかかわりをどう作っていくのかが問題。世代がとぎれないようにしていきたいと思っている。

教育長：出口教育をしっかりとやらなければいけないということで、筑波大学の先生から学んだり、高エネルギー加速器研究機構や国際協力機構（JICA）に行ったりしている。先を見て夢や希望をもてるような、見通しをもてるような教育をしていきたいと思う。また、今年から原研や日製のOBの力を借りて、子ども科学クラブを立ち上げた。まちづくりの一環として行っている。教科学力も大事だが第二学力も大事だ

真崎地区 村政懇談会

と思うので、学力保障ではなく、その子なりの学習保障を大事にしていこうと考えている。その子の輝くものを大事にしていけば、村長のいうような子どもが、そして大人が育っていくのではないかと考えている。

真崎区住民：最近の新聞で、水戸市を中心とした中核都市構想の記事を読んだ。水戸市長はたいへん乗り気のような感じを受けた。近隣市町村を集めた会議の中でそのような話題が出ているのかお聞きしたい。前村長は「東海村の独自性を大事にしたい」と言っていて、ひたちなか市との合併も村民の意向を第一に考えて進めるとのことだった。周囲の環境が変わってきているが、都市構想ということになると、東海村はどうなるのか。まだ具体的な話にはなっていないと思うが、村長の意見を伺いたい。

村長：心配ない。私は「合併しない」と議会でも発言している。水戸市は人口が20万人を超えているので単独で中核都市になれると思う。また、東海村は水戸市と隣接していないので、問題ないと思う。ひたちなか市とは消防やごみ、下水道や斎場で広域行政を結んでいる。これは合併ではなくて、より効率のいいサービスを行うためのもの。村の人口38,000人は目がゆき届く。村民の方もやる気があるので、上手く世代交代だけでできればこの規模で上手く回していけると思う。人口が多いのはよいとは思わないし、合併はない。

以上